

～ “りんご高密度植栽培” で収量 3 倍～

白鳥 勲

国営かんがい排水事業「伊那西部地区」



取組のポイント

- ①長野県内でいち早くりんごの高密度植栽培を導入。
畑かん用水を活用することで、単収は慣行栽培の3倍に増加。
- ②雑草防除、土壌改良、温室効果ガス排出量削減に向けた取組として、剪定枝を炭化し樹元に施用。
- ③県の新規就農里親支援制度の里親農家として研修生を受け入れ。

経営の概要

従事者数：4人
経営面積：5.0ha
主要作物：りんご4.5ha、
なし0.25ha、ぶどう0.25ha



長野県伊那市

取組の経緯と課題

- ◆農業経営安定のための生産量の向上と遊休化の恐れのある農地を集積し規模拡大するため、りんごの高密度植栽培を導入。
- かん水方法、成園化までの期間の短縮等の高密度植栽培技術の確立。
- 市場ニーズや収穫時期の分散を図るための品種選定。
- 地域の果樹振興のための担い手の育成。



りんごの高密度植栽培

課題への対応

- 高密度植栽培で不可欠なかん水は伊那西部地区の用水を活用。樹列ごとに給水パイプを設置し、週1回点滴かん水。
- 苗木の育成、栽植密度、仕立方法等を検討し5年で成園化。
- 樹を整列し、機械による摘果や収穫等の作業を容易にした。
- JA等と相談しりんごは10品種以上を栽培。
県と共同で赤肉りんごの試験栽培を実施。
独自ブランドのジュースやジャムに委託加工し、道の駅等で販売。
- 県が進める新規就農里親支援制度の里親農家に平成30年に登録。



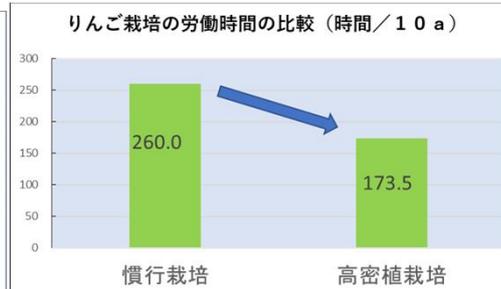
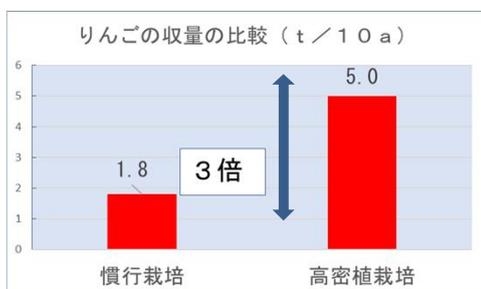
給水パイプ

取組の成果

- 労働時間は33%削減。
- 単収は5t/10a、商品化率も90%に増加
(慣行栽培は単収1.8t/10a、商品化率70%)
- 剪定枝を炭化し樹元に施用。雑草防除、土壌改良の効果も期待。



自社ブランドりんごジュース



事業概要

地区名：伊那西部地区
事業種：国営施設機能保全事業
関係市町：長野県伊那市、辰野町、
箕輪町、南箕輪村
受益面積：2,561ha
工期：平成24年度～令和3年度
事業目的：施設機能保全
主要工事：揚水機場2箇所
用水路 29.3km
水管理施設